



発行所
飯田市竜丘公民館
編集人
竜丘公民館広報委員会
印刷所
龍共印刷株式会社
飯田市上郷黒田 ☎22-5353

人口	6,909人
男子	3,364人
女子	3,545人
世帯数	2,562戸
(29年8月末現在)	

いいだ人形劇フェスタ2017 竜丘公演

台湾・韓国・アメリカ豊かな国際色!



韓国の劇団員から風船アートを受け取る小学生

今年も飯田の夏の風物詩、いいだ人形劇フェスタ2017・竜丘公演が八月三日から開催されました。今回は四日間で行われる劇団の公演が行われ、韓国や台湾からの劇団や、アメリカ人の劇人が登場するなど国際色豊かな公演となりました。はたして外国の劇団はどのような公演を披露してくれたのでしょうか。

本館には韓国の劇団Chin bu Chin bu Pro (チングチング)を迎えました。この劇団は今年で五回目の公演となるそうです。

はたして韓国語が分かるのだろうかという心配がありました。劇団は今年で五回目の公演となるそうです。

劇の前には風船アートショー。できあがった作品は子ども達にプレゼントされ大喜び。劇には恐竜や漁師、オオカミなどが登場。観客との掛け合いもあり大変盛り上がりました。劇団の方に話を聞くと、台本を日本語の分かる方に直してもらい、日本語の台詞を録音し、それに合わせて劇を行ったそうです。子ども達の掛

時又公演 グレゴの音楽一座

来年の「世界フェスタ」に先駆けての海外人形劇公演!!

人形劇フェスタ時又公演初の海外人形劇団による公演を一一五名もの来場者が楽しめました。

サンフランシスコからやってきた座長のひげもじやグレゴさん。ガジャンという不思議な楽器とハーモニカ、タップダンスを踊る木の人形ジャック君、蜘蛛の人形、おさるのモカ、八本の腕を持つ夢の鳥マージャ。楽器が人形になり、人形が楽器を演奏する素敵な音楽一座です。

会場の子ども達の「グレゴさん」の掛け声で始まりました。棒にたくさん

鳴り物をつけた不思議な楽器ガジャンを持って登場したグレゴさん。楽しい、軽やかなリズム音楽、会場から自然と手拍子がおこり、あつという間に一つの輪ができました。

グレゴさんの仲間、さるのモカはパーカッションの達人、夢の鳥マージャは八

桐林公演 台湾の劇団による「西遊記 火焰山」の公演会場は大盛況でした!!

八月五日に竜丘公民館に於いて、台湾の劇団による公演が行われました。

初めて、サンドバッグを見た時の、人間、サル、クマの様子を面白おかしく表

校二年生の佐々木楓花さんは「一年生の時から来ている。去年はスタンブを押し。今年は人数を数えた。人がたくさんいて大変だったけどおもしろかった。」と話してくれました。実際に活動している場面では、高学年が低学年に立ち位置や動き方を教えるなど面倒を見る姿が見られ、このよう

な経験の中で育まれるものがあることを感じました。公演後にはスタッフ、ボランティア、劇団の皆さんとの会食。ちよとした手品を見せていただき言葉の壁を乗り越えてふれあう姿も見られました。

私には小学生のころから、ボランティアに参加しています。参加する前は人形劇を観るだけでしたが、参加してからは今まで見るこ

私は小さな頃から人形劇を観に行っていたのですが、小学校三年生の時、ボランティアがある事を知りました。はじめはスタンブを押すことが楽しそうだったという簡単な理由から参加しまし

最後は、六人の子も達がタップダンス人形の体験をしました。初めて手にする人形にもかかわらず、演奏に合わせて上手にタップダンスを披露していました。

じつと見ていたら失敗、みんなが楽しく参加してくれたら成功とやる前に言っていたグレゴさん。会場が一丸となって盛り上がった公演は成功でした。

竜丘公演を支えるボランティア

毎年、小・中学生を中心に多くのボランティアの方の支えによって運営されています。

緑ヶ丘中学校二年二組 下平佳乃音

私は小学生のころから、ボランティアに参加しています。参加する前は人形劇を観るだけでしたが、参加してからは今まで見るこ

竜丘小学校五年一組 吉川あかり

私は小さな頃から人形劇を観に行っていたのですが、小学校三年生の時、ボランティアがある事を知りました。はじめはスタンブを押すことが楽しそうだったという簡単な理由から参加しまし

実際にやってみると、うれしそうな顔をしてスタンブカードを持ってくる人たちが見られたり、ほかの人たちとの関わり合いも楽しかったです。何よりもボランティアの特権として人形劇の方たちとの交流が楽しく、色々なことが聞けてとても楽しかったです。ボランティアでやることは、



影絵と聞くと、白いスクリーンに黒い影が映るというイメージが強くありますが、この劇団の影絵は、色とりどりの登場人物が映し出されています。これは、水牛の皮を加工し、色が浸み込む加工を行い、それを登場人物に合わせた切り、組み合わせで作成するそうです。その為後ろからライトが当たると、スクリーンに色が映し出され、影絵を見ているとは思えない作品になっていました。

今年の夏も過ぎめつきり涼しくなりましたが、日中は残暑で朝夕の気温差が大きく体調管理等気を配る必要があります。また台風の影響などでその後の天候も一気に変化します。最近の気象は世界的規模の異常気象でゲリラ豪雨のような、短時間記録的降雨量発表などどの地域でも起こる可能性があり、道路冠水や床下浸水など一気に広がった映像を見ると怖さを感じます。自然災害と同時に人災である北朝鮮のミサイル発射の行動もエスカレートしていく恐れあり、世界中でその暴挙を食い止める為にあらゆる手段で対抗していますが、なかなか難しい状況です。解決へ向けて進む事を期待しています。

話は変わり、秋は読書の秋ですね。身近な世界観、本を通じて出会いから人は学ばず多知です。本の魅力はその物語の中に主人公と自分を重ね合わせ、体験できる世界と言えます。現実ではないがよりリアルに感じる感性表現が読み手を夢中にさせます。

先日小学生の読み聞かせをする中でいつもの二冊のうち一冊を読み手と一緒に声出して読んでもらいました。その本とは「ことばあそびうた」です。この本の特徴は同じ言葉の繰り返しと早口言葉のような、言い間違えを誘う言葉が多くあります。数ページ分をみんなで読んだ際所々で囁きでしめると同時に笑いが起きたり、「エーなになに」と嘆き声等もあつて今までにはない反応があり、日本語の言葉の難しさを楽しさを共有でき、盛り上がり本の新しい魅力と世界観を発見できたと思います。



小、中学生による「フェスタボランティア」

のかな?とボランティアをやるのが楽しみで私の中で夏の一大イベントになっています。これからもできる限り人形劇やボランティア活動に参加していきたいと思っています。

今年も飯田の夏の風物詩、いいだ人形劇フェスタ2017・竜丘公演が八月三日から開催されました。今回は四日間で行われる劇団の公演が行われ、韓国や台湾からの劇団や、アメリカ人の劇人が登場するなど国際色豊かな公演となりました。はたして外国の劇団はどのような公演を披露してくれたのでしょうか。

連載特集②

『ギフチョウの分布と
生息環境』

飯田市天然記念物「ギフチョウ」は世界中で日本にしか生息していません。しかも、本州のごく限られた地域のみで、長野県では北信地方と木曽谷、そして伊那谷南部の飯田市、阿智村、下條村、泰阜村、天龍村に採集記録があるだけです。飯田市では竜丘（駄科、桐林、上川路のみ）、伊賀良三穂、川路、龍江、下久堅、上久堅、千代のみです。

ギフチョウが棲めるのは雑木林等の※里山に近い所だけです。それには幼虫が食べる餌が関係しています。幼虫（毛虫）はたいへんな偏食家でウマノスズクサ科の葉しか食べません。この地方ではヒメカンアオイとウスバサイシンですが、この植物自体が局所にしか生

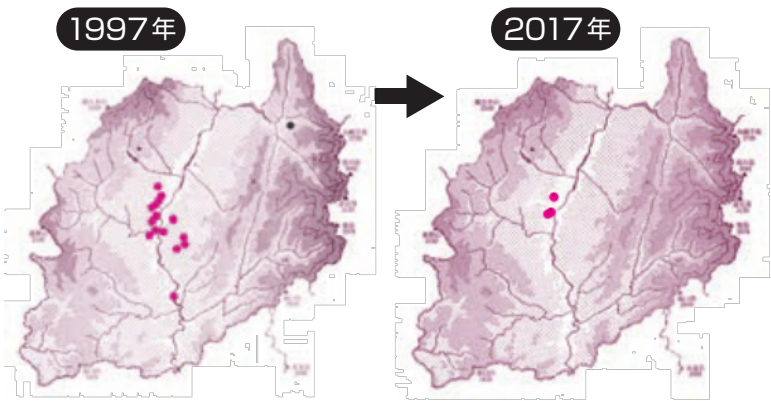


えていないのです。ギフチョウの雌はこの植物の葉の裏に産卵し、孵化した幼虫はその葉を食べて成長します。このように希少種である上、過去に「飯田市のギフチョウは黒帯が太く美しい」と地図入りの本で紹介されてしまったため、昭和五十一年春以降、急に全国から大勢の収集家が押し寄せ、乱獲が始まりました。

飯田昆虫友の会
事務局 松下重雄
※里山とは、集落に近い場所
所で人間の影響（下草刈り等の人による管理）を受けた環境の山をいいます。

下伊那の分布状況（産卵調査結果より）

20年間で激減した



～水辺の楽校～

高校生対子供達の
水掛合戦が大好評



飯田OIDE長
姫高校の生徒さん
は、今年は竹を使っ
た水鉄砲の作成を
子供達と行いまし
た。できあがった
竹水鉄砲を使って、
水掛合戦を高校生

九月十日(日)「第十六回水辺の楽校交流イベント」が開催されました。子供・大人・スタッフ合わせて約一五〇名の参加がありました。かわらんべの久保田先生、ミナト光学工業㈱の今村先生に講師をしていただき、飯田OIDE長姫高校商業科生徒による企画もお願いし、参加者を、3グループに分けてイベントが行われました。

水生生物の観察では時間も忘れるほど夢中で川探索し、カワムツの稚魚、ザリガニ等多くの生物が捕獲されました。その後、久保田先生による水生生物の生態などのお話しがあり真剣に聞き入っていました。昆虫観察では、今村先生の指導の下、顕微鏡を使ってトノサマバッタやカエル、コオロギ、草花等

対子供達で行い、とても楽しそうに水の掛け合いをしていました。対戦結果で、高校生が負けると宝箱からお菓子の景品をもらい、子供達はさらに喜んでいました。対戦の相手役をした、須山君と仲村君を始め高校生の皆さんからは、「子供達と楽しく遊べて良かった、楽しかった」と感想をもらいました。

その他にも、フナ金堀み取り、ニジマスの炭火焼きと盛りだくさんの半日となりました。最後には参加者全員で、写真撮影を行いました。良い夏の終わりの思い出になりました。



市政
懇談

住民と行政が
協働する地域づくり

七月二十五日(火)、自治振興センターにて竜丘地区市政懇談会が開催され、牧野市長を前に百十六名の参加者による意見交換等が行われました。

第一部冒頭で牧野市長は、

国史跡に指定された古墳群を始め史跡、文化を守り続けていくこと、ぶらさきよ隊の活動や鷲龍峡復活プロジェクト等を取り上げ、モデル的な地域であると称賛されました。その後、市の新たな基本構想である「いた未来デザイン二〇二八」がスタートしたこと、リニア中央新幹線関連事業や三遠南信自動車道、天龍峡大橋の概要や工事の状況、飯田コミュニティスクールや市の人口変動と減少対策についてスライドにより詳しい説明がありました。



いる。」と締めくくりました。今回初めて参加したMさんは「地域を良くしようと考えている人を知り合える場であると思う。」と感想を述べ、次回もきつと参加すると意欲を示されました。これからの竜丘をますます魅力ある地域に発展させ、変わゆく情勢に対応していくため、地域のみなさんが深く関心を持ち一丸となつて地域の活性化に取り組んでいくことが期待されます。

さわやかな音色に癒やされる
ふるさとコンサート in 竜丘

七月十七日(海の日)に、恒例のふるさとコンサートin竜丘が開催されました。今年には昨年に引き続き金管五重奏団「Art Brass 5」のアンサンブルを楽しみました。Art Brass 5は、普段首都圏を中心に活躍している五人の演奏家が、このコンサートのために集まり、楽しいアンサンブルを聴かせてくれます。



竜丘コーラスの歌声による歓迎のあと、コンサートがスタート。迫力あるファンファーレの演奏に続いて、それぞれの楽器の特徴の紹介がされました。一番小さなトランペットから、とても大きなチューバまで、それぞれの仕組みや音色の違いがソロ曲に乗せて紹介されたことで、楽しみながら金管楽器の奥深さを理解することができました。

メインイベントはArt Brass 5と子どもたちの競演。「ふるさと」を一緒に演奏するのですが、子どもたちは一流の演奏を聴いた後、また、事前の練習も少なかったようで緊張気味です。「いざ、ぶっつけ本番」的な感じでスタートしましたが、会場の合唱も相まって大成功。演奏後の拍手を受けた子どもたちの笑顔と安堵の表情がとても印象的でした。

アンコールも含め全十曲があつという間の一時間、さわやかな風のような美しい音色が、猛暑のひとときを癒してくれました。

平成
29年度

あいさつ標語

応募総数 378通

最優秀賞

5年2組 まきしま 牧島 里桜
「元気よく あいさつすると 気分シャキ！」

優秀賞

2年1組 ふるばやし 古林 智也
「えがおでね 行ってきますと 元気よく」

2年1組 しもだいら 下平 柚奈
「おかえりと にこにこえがおで うれしいな」

館長賞

3年2組 たなか 田中 花
「あいさつは 朝いちばんの プレゼント」

育成委員長賞

5年1組 まつの 松野 永暉
「あいさつで 家庭も地域も 明るい笑顔」

PTA会長賞

6年1組 わたなべ 渡邊 志織
「自分から 家族や地域に こんにちは。」